

会 議 録

会議名	令和3年度みよし市障がい者自立支援協議会第2回全体会
日 時	令和4年3月23日（水）午前10時から正午まで
場 所	みよし市役所3階 研修室1～3
出席者（敬称略）	別紙参照
欠席者（敬称略）	ハローワーク
傍聴の有無	2名

発 言 要 旨

第1 あいさつ

年度末のお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今年度最後の全体会となります。各部会の取り組み、来年度に向けての計画等、限られた時間だが積極的な意見交換をお願いします。（柴田会長）

年度末のお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本市の障害福祉にかかわるいろいろな機関で、いろいろな協議ができる場になっている。市の施策にかかわる提言があり、有難く思っている。現場での課題、地域の課題を吸い上げて、本市の福祉行政につなげていくことができる。今後も意見を願って挨拶にかえる。（次長）

第2 協議事項

1 令和3年度のみよし市障がい者自立支援協議会について

(1-1) 運営会議の事業報告について、事務局福祉課立石から説明。
 下半期報告書について、わらび深田氏より説明。

(1-2) 人材育成検討チームの事業報告について、事務局『しおみの丘』秋田氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
わらび 熊谷氏	<p>コロナ禍の中、オンラインを使っただけの開催もあり頼もしく感じる。参加者がもっと集まるとよい。みよし市の人材育成は楽しいと思ってもらえるとよい。</p> <p>事業所同士が集まって研修を行うことで、みよし市の仲間になっていく。みよし市は楽しいとなると、人材確保にもつながると思う。今後も前向きに研修等考えてほしい。</p> <p>事業所としてやれることもあると思う。みよし市内の事業所の管理者同士が集まって、話し合うことはない。管理者も一緒に行うことのできる研修があるとありがたい。</p> <p>社会福祉法人の管理者は月1回集まって話し合いをしており、行動に移ることもある。みなさんのことを支えたいと思うので、管理者も一緒に行える研修も考えてもらえるとよい。</p>
手をつなぐ親の会 岸野氏	<p>ソーシャルワークの視点のイメージは。</p>

しおみの丘 秋田氏	各事業所の職員が、事業所のことだけではなく、地域に目を向けて考える視点。
手をつなぐ親の会 岸野氏	事業所間のつながりということか。
しおみの丘 秋田氏	それも含めて、事業所内だけで支援を完結するのではなく、一人の利用者の方をみんなで支えていく視点。
手をつなぐ親の会 岸野氏	ソーシャルワークの意味を調べた。「多様な人々のよい手助けをする」等とあったが、その中に「その人の幸せそのものには口を出さなくてよい。」というものもあった。その人をよく見て、みなさんで支援していただけるということなので、頼もしく思う。
(1-3)暮らしの場検討チームの事業報告について、事務局『相談支援事業所わらび』深田氏から説明。	
構成員名	意見(質問・回答)等
会長 柴田氏	泰山寮では積極的に受け入れようと話をすすめている。緊急時の受け入れについては、「地域生活拠点」という言葉も知らない職員もいるので、その理解を促している。職員は何かあったら受け入れるという雰囲気が出ているので、協力をさせていただき予定でいる。 この施策自体を地域住民がどれだけ知っているのか。その周知啓発も考えていけるとよい。
副会長 阪田氏	障がいがあってもなくても、暮らしには居住という点が大切。 緊急時の対応で一番大切なのはスピード。いかに早く安心できるか。その仕組みを考えることが大切。 受け皿の問題がある。どこが受けてくれるのか。その人にあった、緊急時の受け入れ先を今後見つけていかななくてはいけない。 国で居住支援協議会を作るよう言われている。この議論を始めた。まずは課題の共有からだと思っている。障害の話だけではないので、福祉課だけでなく、課をまたいだかたちで話をしている。どこが音頭をとってやっていくのかも考えていかななくてはいけない。 人口が減ると空き家が増える。犯罪にもつながる。そういう時代がいずれくる。そうなる前に今から手を打ってもよいかと思う。それを障害から発信していくという取り組みを始めた。
しおみの丘 松平氏	利用者55名のうち、3分の1が母子、父子家庭。平成8年開所だが、現在利用者の平均年齢は40歳に近い。保護者の年齢もあがってきており、家庭の緊急度が増してきている。 住まいの場については、たくさんのご理解、ご協力が必要。特にご理解。 現在、2名の利用者の方が一人暮らしをしている。住まいの場が一番大切。次に食事かと思う。地域で安心して生活できるように、早々に整備されるとよい。 桜の丘の短期入所やグループホームも体験の場として利用していただければよいかと思う。
(2)児童部会の事業報告について、部会長『相談支援OKサポート』戸村氏から説明。	

構成員名	意見（質問・回答）等
こども発達センター 神谷氏	きちんと調査をして、それに基づいてすすめているのがよい。就労の保護者の支援について、その対象者に意見を聞いたところがよい。利用者、子ども主体の事業を立ち上げようとしている報告だった。 来年度、ペアプロを導入することのこと。ペアプロは、子どもが示す行動そのものに注目し、子供の行動がどういう意味を持つのかを考える。子どものよい行動に注目して、困った子ではなく、頑張っている子として、捉えられるようにというプログラム。このプログラムは課題もあるときいている。やってみてどうだったかを振り返り、保護者の声を聴いて、今後の支援について考えてほしい。
みよし市教育委員会 菅田氏	つながりシートについて、実施後もきちんと調査、ヒアリングをしてより良いものを作っていこうとしていることがよいと思う。ヒアリングを通して、つながりシートの学校の先生への周知が足りないと感じた。学校教育課としても反省している。先生方への周知徹底をはかるため、チラシを作成して配布した。今後も学校教育課としても取り組んでいきたい。

(3) 就労支援部会の事業報告について、部会長『みよしはたらく協議会』山口氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
西三河北部障害者就業・生活支援センター 西村氏	雇用セミナーの参加者が増えているのはよいこと。ハローワークでも企業の方に声をかけていただき、よかった。 難病の方、手帳を持たない方等、障害の多様性にどう対応していくか。雇用セミナーの中で、綱川さんより障がいについて丁寧な説明を受けた。より深く理解していただくベースがもてた良い会だった。 来年度も課題について、一緒に考えて取り組んでいけたらと思う。
副会長 阪田氏	部会への商工会、工業経済会の参加について。参画はしているが、ここ4年くらい参加してくれていない。参加を促すために、何か助言はあるか
西三河北部障害者就業・生活支援センター 西村氏	商工会は、冊子を作った時に参加して下さった。大きなメリットがないと参加しにくい。お互いにメリットになること、魅力的なものを考えていければよいと思う。

(4) 精神保健福祉部会の事業報告について、部会長『みよしはたらく協議会』兼重氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
精神障がい者家族会 畠中氏	トークライブは、伝わるものがあった。親として、今のままの環境ではよくなれないと思った。話をしてくれた人たちは、いい支援者に会ったから、自分で親と離れようと思ったから、今があるのだと思った。一緒に暮らしている親は誰もが、家から出てほしいと思っている。それをどうしてよいかわからない。親の力だけではどうしようもできないが、誰かにお願いすることも難しい。 シエルブルーは誰もがいける場所で、いろいろな人と交わることができることがよいと思う。

(5) 医療的ケアさぼーと部会の事業報告について、部会長『キッズラバルカ』川北氏から説明。

構成員名	意見（質問・回答）等
------	------------

特定非営利活動法人 いきもの語り 水井氏	地域への周知の仕方の難しさがある。地域の事業所としてもいろいろ考えていくきっかけになるのではと思う。
みよし市教育委員会 菅田氏	医療的ケアコーディネーターの存在は、とても有難い。学習会は担任だけでなく、学校すべての教員に参加してもらおう。来年度は2件やる予定。保護者もありがたいと感じている。今後もきちんと寄り添い、学校生活を楽しく送ることができるよう、教員も力をつけられるよう、頑張っていく。
(6)副会長阪田氏より	
副会長 阪田氏	毎年、課題がでてきており、膨大になっている。協議会で精神障がいのある方の居場所が大切と言っており、シエルブルーの開所につながった。課題を共有してやってきたから実現できたことだと思う。精神の部会にかかわらず、障害のある方の社会参加についてみんなで、意識していかないといけない。 この協議会が施策提言の源になっているのは事実。ここに御参加の皆様が、いろいろ関心をもって提言や、課題について共同で取り組むことを強化していく必要がある。
2 地域生活支援拠点等の整備について	
地域生活支援拠点等の整備について福祉課立石より説明	
構成員名	意見（質問・回答）等
副会長 阪田氏	昨年3月にみなさんにご意見をいただいた。なぜこれをやるのかを共有しなくてはいけないので、ヒアリングも行った。 居住支援のための機能をしっかりやっていかなければいけない。各部会でやっていることのつながりも周知できればと思う。
わらび 熊谷氏	相談の課題あげていただいた。そこから事業所に連携がとれているかということ、我がごとになっていない。みんなで我がごとにしたら、みんなで少し協力したらできることもある。顔を合わせたら、できることもある。管理者同士で話し合う場があるとよいと感じる。
しおみの丘 松平氏	相談員は忙しくて、事業所に不在なことが多い。事業所の中には相談支援業務がどういうものか把握していない職員もいる。相談員の経験者の中では共有しており、一人がかかえこまないようにしているが、限られた職員の中で共有していることになる。すべての職員が課題として捉えられるかということ、時間がかかる。事業所の努力もいる。まずは相談員の業務の理解が大切。相談員が事業所に帰ってくる頃に、事業所の職員は退勤する。事業所職員がみんな相談員の経験を積むことができるといい。
副会長 阪田氏	相談員と事業所職員のベースは同じ。そこを共有するしかけがいるか。
わらび 熊谷氏	資格がいるものなので、各事業所の意識を高めることも必要か。

副会長 阪田氏	障がい福祉にかかわる人たちが、意識をもつことが大事。その人が自分らしく生きていくにはどうしたらよいかという視点が大切か。 評価をどうするかより、今後どうするかの話ができるとうよい。やり方はたくさんあるので、コミュニケーションをとることができるとうよい。
三好特別支援学校 井上氏	事業所の方には頑張ってもらっていると思っている。学校もどんどんかかわっていきたいと思っている。
副会長 阪田氏	今は関係がとりやすくなってきている。
豊田特別支援学校 大須賀氏	レベルを単純に並べると、事例ごとに違いがある。全体としてはこういう評価。各担当部署において、うまくいったもの、課題のあるものとわかるとよい。相談員は激務なので、ぜひ人数を増やしていけるとよい。連携のとれる体制を。以前は学校の担任が個人の裁量で動いていたものが、今は相談員さんが引き受けてくださっている。一つのケースにかかる手間が多い。相談員さんには感謝している。
副会長 阪田氏	相談員の役割が大きくなってきている。だからこそみんなで共有する場が必要。
副会長 阪田氏	診断表については、おおむねこの評価とする。質問や意見があれば、事務局まで伝えてもらえばよい。メールで返信も可能。みよし市をよくするための指標という位置づけで、その都度協議しながらすすめていく。
3 その他	
来年度の自立支援協議会全体会は7月26日（火）、11月21日（月）、3月24日（金）10時から予定。詳細については後日。	

—閉会—

作成	福祉課	児島 裕子	R4.3.25
----	-----	-------	---------